

自分の「道」を切り拓く

1. 「楽しくなければ仕事でない」

右掲は、私がよく使う「好きな事」＝「仕事」というイラストです。楽しそうに砂時計を反復させていますが、仕事とはこのようでありたいのです。ところが、あるお客様が「先生、楽しいって、新人の頃だけだった」と応えられたように「楽しい」が消えている方が多いのです。その方は、IT関連で幹部社員だったのですが、傍から見ても「楽しい」とは映らなかつたのです。当然、「なぜ？」という問いが起こります。二度とない人生、その一日で重要な時間を楽しめていないのは非常に残念です。この方の場合、①下請企業で客の顔が見えない、②技術的進歩がない、③自分の得意分野がない、④自分が取り組たい事がない、⑤会社として投資する雰囲気がない・・・などが考えられました。

右下は、前号でもご紹介している「幸せの4条件」ですが、3つ目の「役に立っている」と実感することがキー要因であり、お客様が役に立ったと実感したら、さらに関係性が深まり「必要とされる」人材になるのです。

ところが、一般的には、1つ目の「愛されている」とか2番目の「褒められる」が直接的であり実感しやすいものです。私も若い頃、上司である故十河専務から「とっちゃんは褒められたいのか」と聞かれた事がありましたが、「愛されている」を実感するには「褒められる」という事も重要な要素だと実感した事がありました。

「仕事」を好きな事になる事が必要ですが「好きな事」≒「やる気」とすれば、「やる気」という本質は好きな仕事を無心になってする事だと考えています。その為には、社内で褒めるよりもお客様から必要とされる事の方が大きな要素と考えるのです。私は、あるお客様から「社員のやる気を引き出すにはどうすれば良いか」と訊ねられた事がありましたが、即座に「お客様の支持」だと答えた事がありました。適切な商品を提供できれば、お客様の役に立つので感謝される訳です。その貢献がフィードバックされて社員の「やる気」に繋がるという話をしたのです。



2. Will, Can, Mustの3拍子

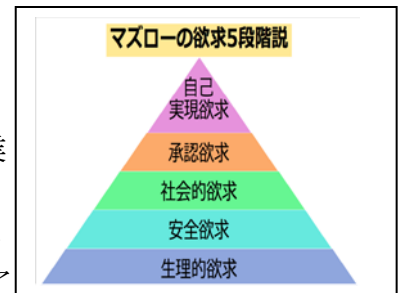
最近、政府が副業を奨励するようになりましたが、P. F. ドラッカーが約20年程前に「明日を支配するもの」という著書の中で「パラレル・キャリア」として第2のキャリアを持って本業以外でも活躍しようという主旨だったのです。人生百年の時代が近づいており、定年後が長くなる中で自分らしく、そして、どのようにしてイキイキと過ごすかというQOL (Quality Of Life:生活の質) 上の重要な課題があります。また、伸び代が少なくなった中年世代がセカンド・キャリア活かして副業でイキイキとする事で他者に害を撒かない事や若い人が他の世界の方々と交流して見識を広げてイキイキと働くという課題があります。つまり、何かでイキイキとしていれば、毎日が楽しく過ごせるようになり、他者にマイナスな言動を及ぼすことが少なくなるのです。

しかしながら、副業という事は休日や時間外という事が前提になるので、そこまでする人は限られて来ると思います。自分のしたい(will)・できる(can)・すべき(must)という様々のモチベーションで副業を選択する事が長く自分磨きになると言えます。単に「お金」を稼ぐ為という理由なら副業を転々する危惧があります。また、「したい事」＝「できる事」という訳ではなく、なおさら、「したい事」＝「できる事」＝「すべき事」と三拍子揃う事は稀有な事と言えます。その上、副業の多くの場合、資金的な裏付けも必要になりますので、「三拍子」＋「資金」と条件を重ねるとますます困難な事になると言えます。

3. 「副業」で「道を拓く」

第1項でも「仕事が楽しかったのは若い頃だった」という管理職の方の話をご紹介しましたが、お客様を見ていると「楽しそう」と映る方は意外に少なく、余り適性とは思ってなくても給与の為に、ちょっと過激な表現になります。会社にしがみついている感じなのです。ただ「しがみついている」だけなら害は小さいですが、党内野党のように会社と距離をおいて正論を述べながら実践をしない場合、その正論が他者に蔓延するのです。そして、恐ろしいことに、その正論は現実を反映しないもので「ないものねだり」の状況では、組織的に負のスパイラルにハマり込む危険性が大きいのです。

ドロッカーがパラレルキャリアと予言しましたが、「自分のしたい(will)・できる(can)・すべき(must)」事を明確化して自己実現への道を切り拓く事が大切です。右掲はマズローの欲求5段階を表したものですが、自己実現を追求する事が出来る人生は本望と言えます。仮に、本業が「社会的欲求」や「安全欲求」・「生理的欲求」というレベルであっても、その本業での忍耐とは別の世界で自分が輝く世界があるので、夢を持ってイキイキとする事が可能なのです。もし、そのセカンド・キャリアが本物であれば、そのキャリアを磨いて本業化する事も可能ですし、定年後の人生を輝くものにする人脈づくりにもなるのです。



従って、単純に金が欲しいというアルバイト的な動機であれば、このような人生を変えるような影響力をもたらす事は稀有であり、その延長線上で「道を切り拓く」という事にならないのです。「道」とは「首をかけて歩む事だ」とある方から教わりましたが、副業であっても自己実現につながる事で貴重な時間を費やす価値が高まるのです。

4. 自分の道を切り拓く

私自身を例にすると若い時にコンピュータを担当しましたが、トヨタ系販売店で必要な全アプリを開発して、さらに、他社のソフト開発もしたキャリアがありますが、隠れた能力として、故十河専務から教わったブレチンや朝礼資料・トヨタ自動車との契約の為の中期経営計画などの作成というキャリアがありました。今、経営コンサルタントとして仕事をしていますが、それが現在の仕事に直接大きく影響しているのです。故船井幸雄先生は「過去オール善」と教えて下さいましたが、まさに経験を活かしているのです。

私は、平成6年4月から11月まで船井総研の客員経営コンサルタント養成学校に通いましたが、この期間では自分の領域を見つけ出す事ができなかったのですが、その後、独立してお客様に「ブレチン」として月1回A4で2頁の内容を郵送していたのです。まさに、若い時の経験から出た物で、これを活かして「Faxちらし・3段活用マーケティング」というオリジナル分野を切り拓き、今日まで「道」として歩いて来たのです。このような事から「セカンド・キャリア」は新しく切り拓くばかりでなく、過去の経験の中から引き出す事も重要だと実感している次第です。

最近、いろんな資格やそのコンサルタントという流れが強くなっていますが、仮に、政府の助成金や補助金を企業にもたらすだけなら、その事が自己実現なのかという疑問が浮かびます。「資格」で仕事が出来て「楽しい」なら、それもありかと思いますが、「資格」は他者との差異化ができないので時間の経過とともに競争が増えて陳腐化のリスクを含んでいるのです。私は、どうせリスクを負うならオリジナルな分野で自己実現する道を選んで頂きたいと思うのです。1回切りの人生なので悔いのないように自分の道を切り拓きたいと思います。